

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



January						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

January 2024 vol.117

## ◆ 王滝村自然湖

所在地：長野県木曾郡王滝村

交通：中央自動車道「伊那」IC 西約 80km

長野県と岐阜県の県境に位置する標高 3,067m の御嶽山は、富士山、白山、立山と並ぶ日本有数の霊峰として知られ、平安時代から江戸時代にかけては修験道の場として登拝されました。18 世紀の終わり頃には一般民衆にも開放され、今日まで多くの登拝者が訪れています。

いまから 40 年前の昭和 59(1984) 年 9 月 14 日、御嶽山の南東山麓を震源とする M6.8 の長野県西部地震が発生しました。この地震で、御嶽山は 8 合目 (2,550m) 付近を最上部とした大規模な山体崩壊を起こし、3,600 万 m<sup>3</sup> (バンテリンドームナゴヤ約 20 個分) とも言われる土砂が土石流となって川を下り、下流の地域に大災害をもたらしました。

御嶽山の山体崩壊による土石流は、南山麓を流れていた伝上川を下り、さらには尾根を越えて濁川へと流れ込み、木曾川の支川・王滝川にまで到達しました。王滝川を埋めた土石流は延長約 3.5km、厚さは 20～50m に及んでいます。この山体崩壊による土石流は、降雨によるものとは異なり、流下する途中、木々をなぎ倒し、何か所かで 100m を超える尾根をも突き崩す大きなエネルギーを持ったもので、想像を上回る被害を発生させました。

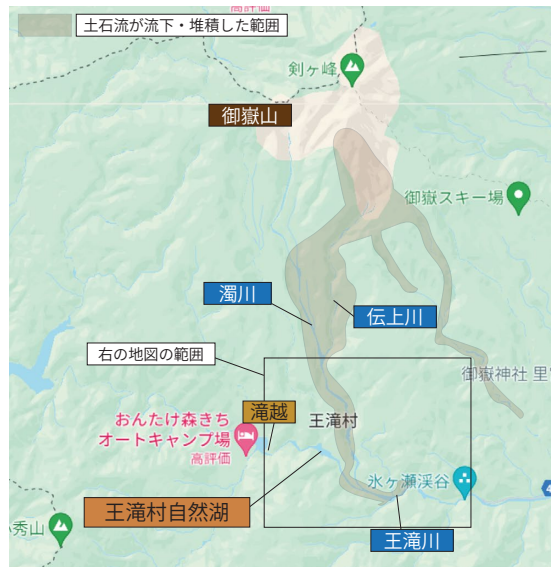
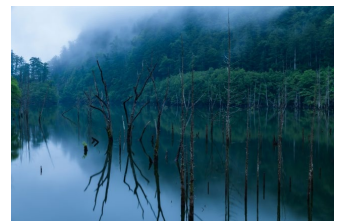
御嶽山の崩落のほかにも、集落の近辺で大規模な崩壊性の地すべりが発生し、家々や人々を巻き込みました。王滝村の中心部に近い松越地区では、御岳湖に流れ込む大又川の右岸側で大規模な地すべりが発生し、住宅、森林組合、生コン会社等が飲み込まれ、13 名が命を落としました。ま

た、王滝川上流の滝越地区でも大規模な地すべりが発生し、水田及び家屋 3 戸が押し流され、死者 1 名、行方不明者 3 名の被害が発生しました。

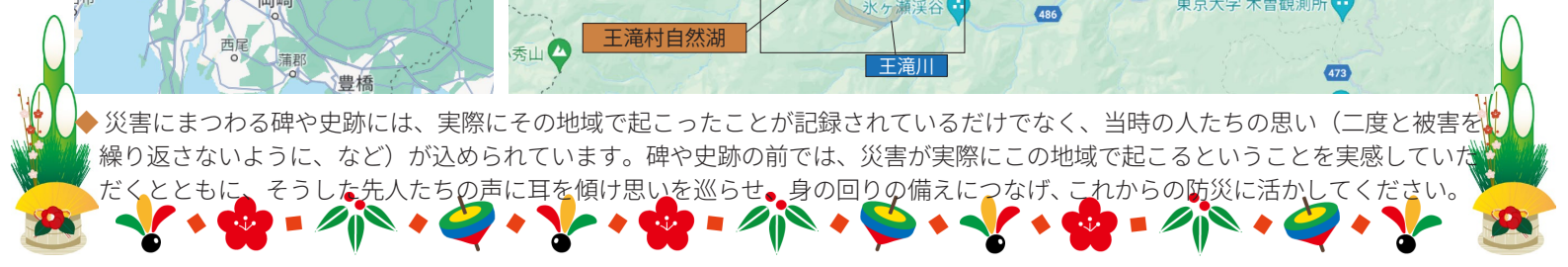
長野県西部地震の被害は、御嶽山の山体崩壊による大規模な土石流、松越地区、滝越地区における地すべりなどにより、王滝村を中心に死者・行方不明者 29 名、負傷者 10 名、家屋全壊 14 棟、半壊 73 棟となり、被害総額は 254 億円に上っています。

土石流により大量の土砂が流れ込んだ王滝川では、合流地点から上流にも土砂が押し出され、川の流れを堰き止めました。これによって生み出されたのが王滝村自然湖です。自然湖と呼ばれる場所は、地震前は深い森に囲まれた山深い渓谷でしたが、土砂により川の流れが堰き止められ、深いところでは 20m も水位が上昇し、谷間の森が水没しました。水没していない部分の木々は、水面から生えているかのように見え、神秘的な雰囲気が漂う景色になっています。

現在では、貴重な自然遺産として、自然湖の環境を守り歴史を伝える活動が行われており、そのひとつとして、ネイチャーカヌーツアーが開催されています。ツアーでは、地震により生成された自然湖を現地で体感することができます。ネイチャーカヌーツアーのホームページには、自然湖の解説とともに、御嶽山の山体崩壊による土石流の流下状況のわかりやすい写真が掲載されています。)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ● 渥美半島の海食崖 (vol.95,2022.3)

所在地：田原市南神戸町ほか

交通：豊橋鉄道渥美線「神戸」駅南約6km

渥美半島の太平洋岸では、表浜とも称される砂浜の背後に、高さ10mから70mにも及ぶ海食崖が東西に連続しており、地震のたびに大規模な崩落を繰り返してきました。

昭和19(1944)年の昭和東南海地震に遭遇した住民の神戸海岸での体験談です。「地区民が総出で地引き網をしていた南町海岸でのことです。突然、地面からゴォーという地鳴りが聞こえ、海岸全体に土煙が立ちこまりました。…煙が去り、私の目の前に現れたのは、海岸線の至る所で大規模な崖崩れが発生していた情景です。」

安政東海地震についても、東神戸の村民が次のように記しています。「安政元年(1854)11月4日、大地震。…地震の為、浜の欠(崖)は裂け、浜辺は白煙となり、広き所

数十間も欠込崩れ、弥々皆死を覚悟、浜にて一同大念仏を唱え、陸へ帰ること不能。無據、東百々村井戸谷へ行き、これより上陸し、いずれも其の揚がり道に困難したが、漸く衆人我家へ帰り、然れ共、微震未だ止まらずして、海面大いに轟き、一見すれば南大王崎より大山の如き大ツナミ、東の方より同じく大ツナミ、其の前凡そ海面二十丁位潮干となり、然る所、東西より斜に大ツナミ寄来り…」

直近の昭和東南海地震から70年以上が経過した現在では、崩落した海食崖に緑色の植生が回復し、崖崩れの様相は消し去られ、災害の記憶は薄れつつあります。しかしながら、次に南海トラフの地震が発生したときにも、これまでと同様、大規模な海食崖の崩落が発生する可能性があります。現地を訪れる際には、そうしたことも頭に入れ、津波からの避難行動をイメージしておくことが大切です。

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.95 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★ 木曾路氷雪の灯祭り

氷雪の灯祭りは、地元住民手作りのアイスキャンドルや雪像などが木曾路の冬の夜を暖かく彩る幻想的なイベントです。木曾路内の宿場や木曾御嶽山麓などで行われ、例年1月下旬から2月中旬まで開催されます。(開催場所により開催日時は異なります。木曾谷とりっぷHP参照)

石畳の坂をアイスキャンドルで照らす馬籠宿、竹灯籠をメインとした寝覚めの床、地元の子供たちが作ったアイスプレートやアイスキャンドルも展示する福島宿など、古い町並みや史跡に明かりが灯され、昼間とは違った雰囲気の中で散策を楽しむことができます。期間中にはフォトコンテストも開催され、例年幻想的な写真が数多く寄せられます。



木曾谷とりっぷHPより

### ～鉄道で巡る～

おんたけ交通は、主に木曾地区を走る路線バスを運行する会社で、王滝村のほか、木曾町・上松町・南木曾町などが運行エリアです。木曾福島駅と新宿駅を結ぶ高速バスの運行や、貸切バスによるバスツアーも行っています。



おんたけ交通HPより

おんたけ交通が運行する王滝村営バスが、木曾福島駅から王滝村の中心部へは約30分、御嶽山剣ヶ峰への王滝口コースの登山口である田の原へは約1時間15分で結んでいます。

### ● ブレイクタイム ●

#### ♪ おんたけ休暇村

おんたけ休暇村は、名古屋市の水源地である木曾川上流域の王滝村に、昭和48(1973)年に設置された宿泊施設です。夏には青々とした木々の緑、秋には色鮮やかな紅葉、冬には真っ白な雪景色と、四季折々の美しい景色を楽しむことができるセントラル・ロッジや、清々しい空気と大自然に囲まれたキャンプ場での宿泊のほか、天文館での星空観測や敷地内の豊富な木材を活用した木工体験、そば打ちや五平餅づくり、クライミングなど、様々な体験活動の提供が行われています。



おんたけ休暇村HPより

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災 Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年1月)